

## 巻頭エッセイ

### 大臣官房参事官(技術監理・情報化)のご紹介

原田卓三

前 国土交通省大臣官房 参事官 (技術監理・情報化)



大臣官房参事官(港湾情報化)は、令和6年4月に港湾局に新しくできた課長級ポストになります。『港湾情報化』となっていますが、サイバーポート推進室と技術監理室の業務を引き継いだのが参事官の業務となります。当初は、何をやっているの?とか、どこに座っているの?といった疑問質問も多くあり、令和6年4月以降も技術監理室長のポストが残ったままで別の業務を行っていたので、電話など若干の混乱もありました。このため、いろんな場で挨拶させていただくたびにどこで何をやっているのか説明させていただいていました。この4月で1年が経過し、最近はどうやら皆さんにも認知していただけるようになったのではないかと思います。令和7年4月からは、大臣官房参事官(技術監理・情報化)との呼称となり、技術監理室長ポストもなるので、すっきりするものと思います。

ここで、改めまして、大臣官房参事官(技術監理・情報化)の業務内容を紹介させていただきます。

まずは、港湾の情報化の取組であるサイバーポートは、①民間事業者間の港湾物流手続を電子化し、効率的な港湾物流を実現する「港湾物流分野」、②港湾管理者の行政手続の電子化や調査・統計業務の効率化を目指す「港湾管理分野」、③港湾計画から維持管理までの一連の情報を電子化し、GIS上でアクセスを可能とすることにより、港湾インフラに関する生産性向上やアセットマネジメントの実現を目指す「港湾インフラ分野」の3つの分野で構成されたプラットフォームです。インフラ分野では、今後作業船に関するデータとの連携や活用も検討できるのではないかと考えています。令和7年度からは有料化(月9千円/社なので是非登録を!)されますが、無料版もあるので一度視

いてみて下さい(<https://www.cyber-port.mlit.go.jp/infra/>)。

続いて、技術監理として、港湾関係の技術基準や技術開発、海象計などの観測網の管理、直轄作業船の整備や開発試験など港湾関係の技術全般を担当しています。直轄作業船の関係では、老朽化が進むドラグサクシオン浚渫兼油回収船(現有3船とも20年)をどうするかが最重要な課題の一つと考えています。ドック入り中の清龍丸を見学させてもらう機会があり、船長さんはじめ船員の皆さんから老朽化の状況やどうにかこうにか使っている実態を聞かせてもらい、なんとかせねばと再認識しました。しばらく国内で建造実績がなく技術者はいるのか、部品等の調達は大丈夫かなど様々な問題があると思いますが、作業船協会や会員の皆さんのご支援いただきながら検討を進めて行きたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

《最後に》

私事ですが、令和7年4月1日付けで港湾局から異動となります。着任後はじめて書かせていただいた巻頭エッセイが異動のご挨拶となります。この場をお借りし、作業船協会及び会員の皆さんに大変お世話になり感謝申し上げます。

1年間という大変短い期間でしたが、作業船について勉強し、その奥深さや課題も再認識したところです。国の職員は、機械職が少なくなっており、作業船に関する知識の継承も年々難しくなっている状況です。作業船の今後の課題解決については、作業船協会及び会員の皆さんの技術力が頼りと考えていますので、ご支援よろしくお願い致します(なお、後任は大岡秀哉氏となりますので引き続きよろしくお願い致します)。